



報道関係者各位

2024年4月12日（金）  
NPO 法人日本ブラインドサッカー協会

---

## 体験型ダイバーシティ教育プログラム「スポ育。」2023年度集計 13,347人が体験し、累計体験者数が20万人を突破！

---

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会（以下、JBFA）は、小・中・高校生を対象とした体験型授業「スポ育」の2023年度（2023年4月～2024年3月）分の集計を終え、昨年4月から今年3月までに、408件、13,347人が参加したことをご報告します。参加者数は2010年のプログラム提供開始から累計で20万人を超え、2023年3月末までに5,213件、203,797人が体験しました。またスポ育は、対面実施が困難な地域の学校を対象にオンラインでも開催しており、昨年に引き続き海外の日本人学校（イギリス・ギルフォード）でも開催することができました。

### ●「スポ育」とは

パラリンピック競技であるブラインドサッカーの要素を用いた、体験型ダイバーシティ（多様性）教育プログラムです。1件あたり90分を基本とし、子どもたち全員が視覚に障がいのあるブラインドサッカー選手と触れ合いながら、視覚をアイマスクで閉じた状態でさまざまなワークを行います。子どもたちに障がい者への理解促進や、コミュニケーションの重要性、チームワークの大切さ等の学びを提供しています。



JBFAは2022年10月より、ブラインドサッカーチーム「ツエーゲン金沢 BFC」の活動支援を行っている、株式会社石川ツエーゲン（J3所属ツエーゲン金沢を運営）と金沢市内におけるスポ育実施の業務委託契約を締結しており、2023年度の実施数は48件（1,364人）となりました。また、スポ育パートナーである参天製薬株式会社と連携し、参天製薬株式会社の社員が、選手やファシリテーターを務めるスポ育の実施数は60件（1,965人）となりました。

「スポ育」は、スポ育パートナー企業のサポートにより原則無料で実施しています。2023年度（2023年4月～2024年3月）の「スポ育」活動実績、過去実施件数、体験者数の推移および体験者の声は2ページ目以降に記載しています。

JBFAはスポ育パートナー企業とともに、一人でも多くの子どもたちにスポ育プログラムを提供できるよう、国内外、地域を問わず今後も積極的に取り組んでまいります。

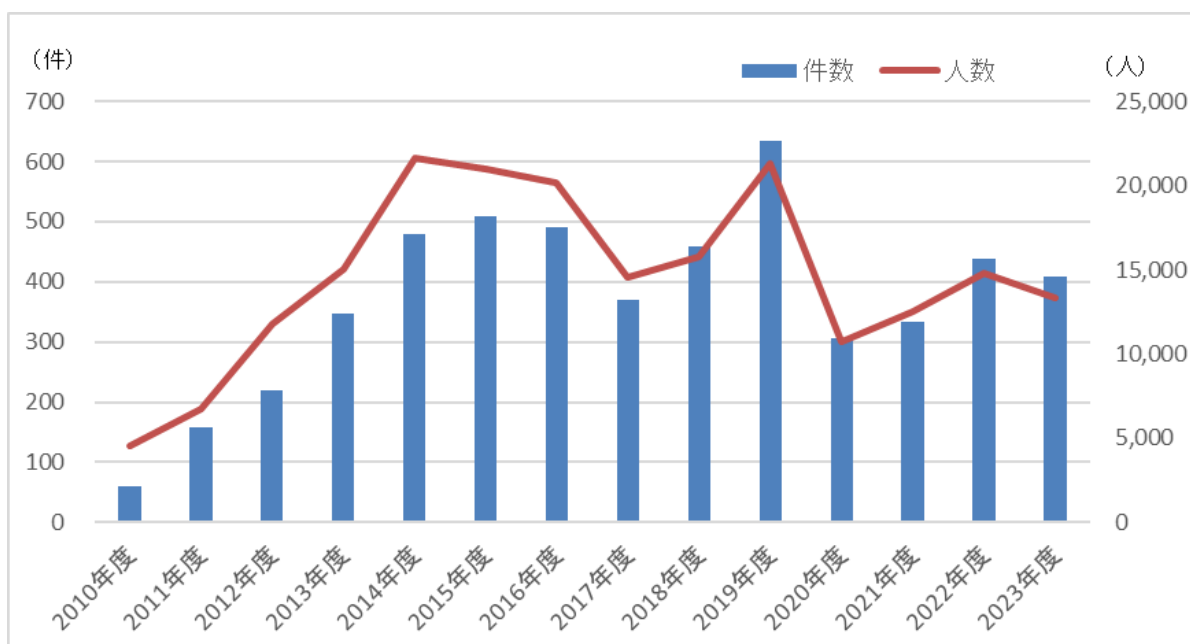
### ●体験型ダイバーシティ教育プログラム「スポ育」申込概要

- ・内容：体験型ダイバーシティ教育プログラム（事前学習、体験学習、事後学習）
- ・実施地域：全国（海外はオンライン開催のみ）
- ・対象：小学校4年生～高校3年生までの学校またはスポーツ団体 ※小学3年生は9月から実施可能
- ・プログラム詳細およびお申し込み：<https://supoiku.b-soccer.jp/>

※2024年6月～8月開催分のお申込み受付は、4月8日（月）より開始しています。

<スポ育実施件数および体験者数の推移>

期間	年度	件数	人数
2010年9月～2011年3月	2010年度	61	4,509
2011年4月～2012年3月	2011年度	157	6,782
2012年4月～2013年3月	2012年度	220	11,754
2013年4月～2014年3月	2013年度	347	15,081
2014年4月～2015年3月	2014年度	479	21,617
2015年4月～2016年3月	2015年度	508	21,008
2016年4月～2017年3月	2016年度	491	20,130
2017年4月～2018年3月	2017年度	371	14,549
2018年4月～2019年3月	2018年度	458	15,736
2019年4月～2020年3月	2019年度	634	21,272
2020年4月～2021年3月	2020年度	307	10,736
2021年4月～2022年3月	2021年度	333	12,488
2022年4月～2023年3月	2022年度	439	14,788
2023年4月～2024年3月	2023年度	408	13,347
累計		5,213	203,797



<コンテンツ別>

プログラム	単位	コマ	人
		件数	受講人数
スポ育・対面体験型		401	12,654
スポ育・オンライン座学型		7	693
総計		408	13,347

2023年度の「スポ育」活動実績

<月別>

年	単位 月	コマ 件数	人 受講人数	
2023年	4月	5	163	
	5月	16	469	
	6月	46	1,449	
	7月	24	861	
	8月	3	117	
	9月	35	1,174	
	10月	56	1,816	
	11月	42	1,590	
	12月	46	1,402	
	2024年	1月	57	1,811
		2月	59	1,850
		3月	19	645
総計		408	13,347	

<学年別>

単位 学年	人 受講人数
小学3年	345
小学4年	6,086
小学5年	1,405
小学6年	820
中学1年	1,100
中学2年	2,705
中学3年	579
高校1年	46
高校2年	26
高校3年	40
特別支援学級	75
その他	120
総計	13,347

<地域別>

都道府県	単位	コマ	人
	市区町村	件数	受講人数
青森県	弘前市	2	64
茨城県	守谷市	4	136
栃木県	那須塩原市	8	278
埼玉県	久喜市	3	108
	春日部市	3	79
	新座市	1	40
	杉戸町	2	46
千葉県	印西市	7	198
	君津市	2	80
	市川市	1	22
	習志野市	3	103
	成田市	7	225
	白井市	1	12
	木更津市	2	54
東京都	葛飾区	14	404
	江戸川区	5	175
	国立市	2	53
	渋谷区	1	24
	小金井市	4	156
	小平市	3	86
	新宿区	39	1,130
	神津島村	1	46
	世田谷区	9	265
	西東京市	6	215
	青梅市	1	50
	多摩市	5	160
	台東区	2	60
	大田区	2	46
	大島町	1	41
	中野区	3	146
	町田市	6	195
	調布市	32	938
	八王子市	7	268
	板橋区	4	142
	品川区	54	1,900
	府中市	16	493
	文京区	48	1,616
	豊島区	1	35
	墨田区	3	78
	目黒区	4	118
	立川市	2	71
	練馬区	11	284

都道府県	単位	コマ	人
	市区町村	件数	受講人数
神奈川県	横浜市	24	739
	三浦市	3	105
	川崎市	8	309
	平塚市	3	78
石川県	金沢市	12	341
静岡県	三島市	5	126
	磐田市	2	44
大阪府	高槻市	1	109
	大阪市	9	312
	富田林市	2	143
兵庫県	たつの市	4	109
和歌山県	和歌山市	1	68
佐賀県	伊万里市	1	37
イギリス	Horsham	1	187
総計		408	13,347

## ●スポーツ参加者、先生からの感想

視覚障がいって聞くと、見えないから不便なのかなとか怖いのかなとか思っていた。だけど、目が見えなくても字が書けると実感して少し安心した。また、ブラインドサッカーをしている選手が楽しそうにプレーしていると聞いて、目が見えないからマイナスなのではなくて、幸せの形がたくさんあるんだ。目が見えないからかわいそうではなく目が見えなくても幸せになれると改めて感じる事が出来ました。

＜大阪府中1＞

私は今まで、目や耳の障がいを持っている人を見かけても、目を合わせず、スルーをしていましたが、今回目が見えないまま動かなければいけない難しさ、恐怖を知りました。身をもって体験して「もっと障がい者の力になりたい」と思いました。

＜東京都中1＞

これまで視覚障がいの人にはできないことがたくさんあるというイメージでしたが、今回の体験でわたしたちとあまりかわらない！ということに気づきました。これから視覚障がい者を見かけたら声をかけてみようと思います。

＜東京都小4＞

ブラインドサッカーは視覚障がいがある人も楽しめるだけでなく、チームワークも必要で絆が強くなる。とてもすてきなスポーツだと思いました。

＜東京都小3＞

ブラインドサッカーは最初めっちゃむずかしかったけど、後半からなぜか早くやりたいという気持ちになりました。ブラインドサッカーはいがいと楽しいんだと気づきました。

＜静岡県小4＞

スモールステップの段階分けがとても細かく、運動の苦手な生徒もいつの間にかできている、取り組んでいるという状況を作ることができていたと思います。また、生徒の活動中にも積極的に関わってくださり、彼らも安心して取り組むことができたと思います。実際に、スタッフの方の声掛けによって取り組み方が良い方向へと変化した生徒もいました。

＜東京都小学校教諭＞

パラスポーツへの興味・関心がより高まりました。また、今年度はパラ卓球選手と触れ合う機会もあり、障がい者とスポーツを介して接することにより、「障がい者=特別な人」ではなく、自分と同じ「当たり前」の存在」として受け止めることができるようになりました。

＜千葉県小学校教諭＞

ブラインドサッカーのことを話していただくのではなく、「目が見えない人にどのように指示をした方がいいかな」「なかなか指示を出せない子にフォローしているグループがあってよかったね」など、子どもたちのいい点をたくさん褒めていただくとともに、普段の生活における人に対する見方を話していただいた点はとても大きかったと感じています。

＜神奈川県小学校教諭＞

## ●「おも活」事業との連携

JBFA では 2010 年 9 月からスポーツを開始し、2015 年秋からは公益財団法人日本ケアフィット共育機構と事業提携し、「おも活」（おもいやり活動の略）も実施しています。「おも活」とは、学習指導要領にも述べられている、心のバリアフリーに欠かすことのできない、“障害の社会モデル”の考えを学ぶ授業です。

身近な生活から社会の困りごとについて考え、「環境が作り出す困りごと」と「相手の立場」という両面から気づき、考え、行動する好循環を促しています。

—社会が作り出している障害と、それを解消するためにはどうすればいいのかを、人の多様性を知りながら自ら考え気づく、そしてお手伝いが必要であればお声がけをして、おもいやりの気持ちを行動に移す—

自分たちにもできることがあると知ることで、子どもたちの自主性を促すプログラムです。2023年度はスポ育実施校向けに、5件（437名受講）実施しました。

### ●公益財団法人日本ケアフィット共育機構について

日本ケアフィット共育機構は、超高齢社会の到来をふまえ、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指し、高齢者や障害者を含むあらゆる人々が安心して外出できる社会を目指して活動しています。主に、人の多様性を受け入れ、違いを尊重したり、相手の立場になって考え行動ができる『サービス介助士』の普及を行っています。近年はブラインドサッカーや車いすバスケットなどパラスポーツ大会において、年齢や障害の有無に関わらずスポーツの感動を共有できるよう、介助ボランティアとしての活動も推進しています。

公益財団法人 日本ケアフィット共育機構 <https://www.carefit.org>

サービス介助士 <https://www.carefit.org/carefit/>

### 本件に関するお問い合わせ

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会 広報コミュニケーション室

E-mail: [media@b-soccer.jp](mailto:media@b-soccer.jp) 電話番号: 03-6908-8907

協会ウェブサイト: <https://www.b-soccer.jp>

住所: 〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 ペアーズビル 3階